

(資料1) 令和6年度 磐田市立青城小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
自分の考えを深め、表現する子	目標を自分ごとにする授業の充実 ・ 問いや考えを引き出す授業展開の工夫 ・ ICT機器の活用を含む対話活動の工夫	子どもたちは、進んで考えたり、友達と話し合ったりして、自分の考えを深めることができたか。	A	○ 学校評価アンケートで、「授業で学習した内容を理解している。」児童が92%、教師が100%と評価しており、高い教育効果が出ている。本年度の6年生の全国学力・学習状況調査結果は、2教科とも国や県の平均正答数を上回っており、安定した学力が定着していることが伺えた。今後も、本校の児童のよさを伸ばすとともに子どもたちに必要な力は何かを考え、課題について改善していく。 ○ 校内研修のテーマを「主体的に学ぶ子の育成」として、静岡県総合教育センターの指導・助言を受けながら、主体的に学ぶ子どもの姿はどのような姿であるか明確にすることを重視して授業改善に取り組んだ。 ○ 単元の中で子どもが自ら課題を設定する場面を設定したことで、子どもが課題を自分事として考えることができ、見通しをもって学ぶことができた。	○ 学校の現在の状況が、主体的に学べる環境にあることは、とても素晴らしいことだと思う。自分自身の考えを話すことのできる子どもたちにとって大切なことだと感じる。未来に向けて頼もしい子が育つことを期待している。 ○ 自分で考えて判断できることは生きていく上で大切なことだと考える。そのためにも、「主体的に学ぶ子」の育成は重要だと思う。 ○ 「子どもに自ら目標設定させ、試行錯誤し、努力し、そして、自分の意見をはっきり言える」そんな子どもに育ってほしいと思う。 ○ 対話タイムは、朝の活動だけではなく、授業の中でも行っていた方が「話す・聞く」の力がつくと思う。 ○ 「ロイロノート」とは、どのような機能があるのか、聞きたい。
	学んだことを自分の力で表現する取組 ・ 授業のまとめや振り返りの時間の確保	子どもたちは、授業の内容が理解できたか。	A	○ 子どもが既習事項を生かしながら、自分の考えをもつための学び方を選択したり、試したりしたことが課題解決につながった。 ○ 学習端末やノートを使い、授業のまとめや振り返りを積み重ね、学びを調整する力を高めた。 ○ ICT機器で学習支援ソフト「ロイロノート」を活用し、授業での意見交流や発表を行い、学習成果が上がっている。 ○ 月に1回、対話タイムを設定した。1対1のペアで「話す・聞く」のトレーニングを行い、話すことへの抵抗感を減らすことができた。 ※ 来年度は、教師が教えるべきところは教えるが、課題解決のために学び方を取捨選択したり、試したりする活動など子どもに委ねるところをこれまで以上に明確にして授業を構想することが深い学びや主体的に学ぶ子を育成していこうと考える。	
自分も相手も大切に(徳)進んで行動できる子	心と心のキャッチボール ・ 心をつなぐ「あいさつ運動」の推進 ・ 「ほめほめチャレンジ」の実施	子どもたちは、相手を意識し、相手に伝わる挨拶ができたか。	B	○ 学校評価アンケートで、「相手を意識し、相手に伝わる挨拶ができています」と評価した児童は92%、教師96%だが、保護者は74%という結果だった。アンケート結果から、校内では、挨拶ができていますが、校外や地域では、挨拶に苦しさを感じている児童が多いということが考察できる。今後も、PTAや中学生のあいさつ運動に継続して取り組むと共に、挨拶することのよさを話したり、相手に伝わる挨拶をしている児童を称揚したりしていきたい。来年度も、様々な手立てを講じながら重点的に取り組んでいく。 ○ 「ほめほめチャレンジ」は、子どもたちの自己肯定感、自己有用感を高めるために効果的であった。今後も、自ら考え行動している児童に対して教師が具体的に言葉かけして価値づけし、シールを渡す活動を継続していきたい。 ○ 「もくせいタイム」は、児童がいつも目にする本読みカードに生活の中での目標を記入し意識を長く持続させるようにして、隔週、「もくせいタイム」の時間に評価するという活動を継続的に行った。学校評価アンケートで「今の自分を振り返り、自分を見つめ直すことができています」児童88%という結果に繋がっていることが考察できる。 ○ 「つながり週間」では、学校生活アンケートに書かれたことをもとに、担任が児童一人一人とじっくりと向き合う時間を確保し児童理解に努めた。子どもたちが安心して学べる学校につながった。学校アンケートでは、「楽しく学校に通っている」児童84%、保護者91%「困った時に教師に相談できている」87%、保護者のみの質問「先生は、子どものことを理解して指導にあたっている」91%という結果だった。教師と子どもの信頼関係が高まっている。	○ 挨拶に関しては、地域の大人たちが地域の中で手本を見せることも大切ではないかなと感じる。 ○ 挨拶運動を子どもたちに考えさせ、子どもたちだけで行っていくことはできないか。PTAは、地域で見守る形で行ってみたいと思う。 ○ 見守りボランティアに参加して子どもたちと親しくなってきたので、挨拶はよくできていると思う。校外では、見守りボランティアのビブスを着ていない人に対して子どもたちは不審者ではないかと思ってしまうのではないかなと思う一面もある。 ○ 「相手を褒める、良いところを見つける」という活動は、子どもたちが些細なことにも喜びを感じることに繋がる、とても活動だと思う。
	自己を見つめ強みを伸ばす取組 ・ 「もくせいタイム」の充実 ・ 「つながり週間」の活用	子どもたちは、今の自分を振り返り、自分を見つめなおすことができたか。	B		
ねばり強く心と体をき(徳)取り組む子	たくましい心と体づくり ・ 体育科授業や体育的行事を通してめあてをもたせ、振り返り、子どもの成長を促す	子どもたちは、めあてをもって運動し、最後までやりぬくことができたか。	A	○ 体育科授業では、多くの授業でめあてをもって運動することを意識できた。 ※ 来年度は、より自分の能力を把握した上でめあてを持たせ取り組ませ、振り返りをしていく。その際、体育ノートや学習用端末の画像や動画なども活用していく。 ○ 体育行事の持久走記録会で、3年生～6年生は、時間走で行い、自分の立てた目標をより具体的に立てて、自分自身で目標達成に向けての手立てを考える機会を多く作った。アンケートでは、93%の児童が、自分と向き合い、自分で立てた目標に向かってがんばることができたと答え、多くの子どもが達成感を感じていることがわかった。 ○ 月に1回、保健委員会が「健康・安全の日」に行っている保健の目標についての全校放送を通して、子どもたちが健康や安全について学び、意識を高めることができた。 ○ 学府共通で取り組んでいる「こころの天気」では、自分の心を見つめ、自分の気持ちに気付くことができた。学府保健委員会でも「こころの天気」を取り上げ、保護者にどのようなよさがあったかを発表した。	○ 子どもたちの体力低下が報告されていたり、学校以外で運動する機会が少なかったりするため、授業で極力、持久走を続けてほしい。 ○ 持久走大会を持久走記録会として実施方法を改善したことに関して、目的を理解している保護者が少ない。学校の考え方は、よく分かるので「自分と向き合い、自分で立てた目標に向かって頑張る」という目的を保護者に丁寧に説明していく必要がある。 ○ 「こころの天気」でどのように小学生の心を見つめ、自分の心に気づかせているか。
	健康管理の意識向上 ・ 「健康・安全の日」を活用した呼び掛け	子どもたちは、自分の心と体に関心を持ち、健康に生活できたか。	A		
学級校種つくれる	保護者は、学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っているか。		A	○ ホームページや学校便りなどで学校のよさや子どもの頑張りを発信してきたことで、学校評価で「学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている」の保護者の評価が、82%だった。来年度も継続していく。 ○ 参観会や学校公開日、学校行事の公開等を通して、子どもたちが学校教育目標「自ら学ぶ たくましい子」に向けて取り組んでいる姿を見させていただくことができた。昨年度まで、7月下旬に行っていた保護者全員との面談を本年度は、5月下旬に行い、昨年度より早い段階で、教師と保護者が顔をあわせて、子どものことをじっくりと話す時間を確保し、早い段階で信頼関係を高めることができた。学校評価アンケートでは、「先生は、子どものことを理解して、指導にあたっている」保護者評価91%という高い評価だった。 ○ 普段から担任が保護者と本読みカードや連絡帳、電話、面談等で情報を共有することで、子ども理解が進み、効果的な指導や支援ができた。 ○ 9月より、各種配付文書を保護者連絡アプリ「コドモン」で配信を行っている。スマートフォンなどでのインターネット機器の普及に伴い、保護者からの要望も多かったため、迅速な情報共有の実現と保護者・学校双方の負担軽減に大きく寄与している。今後、見守りボランティアへの広報にも活用できないかと考えている。	○ 新学期早々の早い段階での面談は、保護者にとってありがたい。 ○ 保護者連絡アプリ「コドモン」を有効に使用し、迅速な連絡をお願いしたい。 ○ 今後、見守りボランティアの広報に「コドモン」の活用を検討いただけたらとのことから、地域との連携強化に期待している。 ○ 「子どもの居場所を作ってほしい」という地域の声があるため、コドモンなどで、アンケートを行って、何があるとういかに聞いてほしい。
	先生は、子どものことを理解して、指導にあたっているか。		A		

学校関係者評価を受けてのまとめ

- <知>
 ・ 2年間、「主体的に学ぶ子の育成」を研修として行ってきた成果が出てきているため、今後も、「主体的に学ぶ子の育成」を目指し、授業改善に継続して取り組んでいく。
 ・ 学習用端末の効果的な使い方(ロイロノート等)について、今後も継続して探っていく。
- <徳>
 ・ 「相手を意識して、相手に伝わるあいさつができる子」を目指し、学校全体で様々な手立てを講じながら重点的に取り組んでいく。児童が主体的に挨拶ができるような啓発を児童自らい、PTAや地域の方々とも協力して取り組んでいく。
- <体>
 ・ 「しなやかな心とたくましい体」を目指し、体育的活動を充実させたり、レジリエンス教育や「こころの天気」に取り組んだりしていく。
 ・ 持久走記録会については、保護者への説明を継続して行い、目的をきちんと伝えていく。
- <信頼>
 ・ 引き続き、こども園や中学校との連携を密にして、一貫教育を目指していく。
 ・ ホームページや保護者連絡アプリ「コドモン」で、学校の様子や各種便りなどを継続して公開していく。
 ・ コドモンを見守りボランティアの広報に活用し、地域との連携強化につなげる。
 ・ 今後も、学校評価の結果を生かして、よりよい教育活動を保護者、地域とともに作り上げていく。